

提案②: 固定化されたイメージを払拭する情報発信

<現状>

- ◆ 今回の調査では、ゴルフをやめた理由として、「プレーフィーが高い」、「用具価格が高い」という回答が上位2位
- ◆ しかし実際には、会員権価格やプレーフィー、さらには中古市場の充実により用具用品も安価で購入可能

<提案>

『ゴルフは(安価に楽しめる)身近なスポーツ』であることが浸透するような戦略のもと、情報発信をすることが必要。「おじさんのスポーツ」というイメージも未だに払拭されていない。

提案③:新規層の開拓に加え「もういちどゴルフを」の施策

<現状>

- ◆新規層開拓に関する提言書やレポート
- ◆「ゴルマジ!」、「楽ゴル」、「ゴルフのたすき」、「たびーらスイーツゴルフ」等々、民間企業の取り組み

<提案>

「新規ゴルファーの開拓策」とともに、『もういちどゴルフを!』といったスローガンで、「離反ゴルファーの再接近策」を見据えたゴルフ業界の取り組みも、ゴルフの人口問題に対する解決策の目のつけどころとして意義がある

「ゴルフを再びやってみたい」と考えている割合は「50歳～54歳」(41.2%)、「45歳～49歳」(40.0%)が高かった。出生数200万人超え世代(1971年～1974年)が含まれており、市場へ及ぼす影響も大きいのではないか。この世代を含め、離反者層がゴルフを再開するための条件などについて精査される必要がある。

提案④:ゴルフマナー(エチケット)の明確化・明文化(1)

<現状>

- ◆ゴルフマナーを学ぶ場・書籍などが無い
- ◆ゴルフマナーの指標もない
- ◆エチケット、マナーの具体例が何か曖昧な点が多い
(明文化されていない)

<提案>

- ◆調査や研究を踏まえ、現代的なゴルフマナーの指標を示すことはできないか
- ◆NGKなどの団体が学術レベルと共同でより実務的なゴルフマナーの指標を示すことができないか

提案④: ゴルフマナー(エチケット)の明確化・明文化(2)

	ゴルファー	ゴルフ場
1位	禁止区域での喫煙や喫煙自体が迷惑(15.8%)	スロープレー(25.0%)
2位	スロープレー(13.9%)	ドレスコード違反(21.0%)
3位	打ち込み(9.8%)	ボールマーク、ディボット未修復(10.8%)
4位	ショット時のおしゃべり(9.3%)	コースを汚す、ゴミを散らかす(9.9%)
5位	バンカーの未修復(8.5%)	バンカーの未修復(8.5%)

引用元:

北 徹朗(2016)「ゴルファーとゴルフ場支配人のマナー意識の相違」
ゴルフの科学Vol.29, No.1, pp.56-57



ゴルフマナーの共通見解が無いことで問題やトラブルが起こることも多い

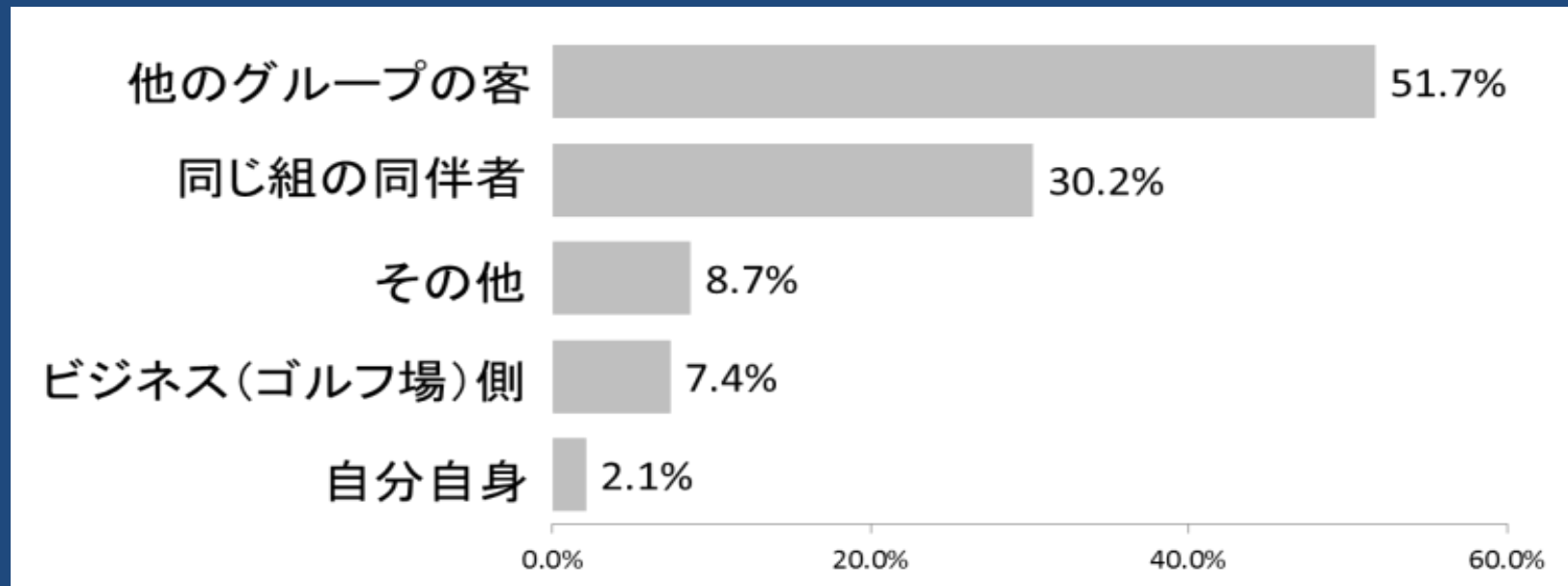
一般ゴルファーの「腹の立った経験」

Q. 「ゴルフ場で腹の立つ経験をしたことがあるか？」



A. 【ある 58.5%】(男性61.4%、女性41.4%)

一般ゴルファーが「腹を立てた相手」



引用元:

北 徹朗(2015)「学窓からみるゴルフ産業改革案7」:月刊ゴルフ用品界10月号,pp.70-71

提案⑤: 大学教育・大学体育との協同

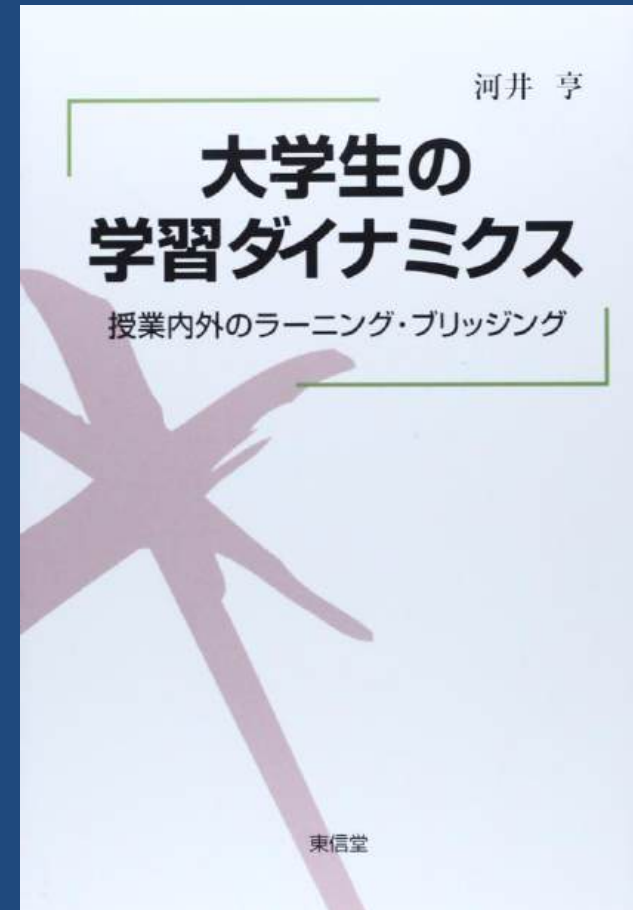
- ◆全国の大学体育において「ゴルフ」が扱われる授業は、581授業もある(北ら、2016)
- ◆他の種目の一例では、柔道47授業(川戸ら、2017)、ソフトボール280授業(北ら、2010)
- ◆大学教養体育における「ゴルフ授業」をゴルフ場で行うのは50授業程度(北ら、2016)
- ◆年間数万人～最大で10万人の大学生が体育授業でゴルフクラブを初めて握っていると推計(北、2016)

「ラーニング・ブリッジング」(河合亨、2014)

河合(2014)は、大学生の教育実践について、正課外での学習と正課授業での学習関係について報告。

授業と授業外の間を移行・往還しながらそれぞれの学習を結びつけて統合することを、「ラーニング・ブリッジング」として概念化。

正課外の実践コミュニティに足場を置いて正課授業での学習へとブリッジングしている学生が知識・技能の習得に関する得点が高い。



この研究の目的

大学ゴルフ授業において「ラーニング・ブリッジング」を試行的に実践。

正課と正課外教育を一体化させた実践から得られた、副次的・波及的な効果について検討し、「広義の大学体育の価値」について考察することが目的。

大学ゴルフ授業受講修了者に対する課外教育プログラム

●多くの大学でゴルフは教材とされているものの、その殆どは学内での打ちっ放しで完結

●正課教育で学んだ知識や技術を、実際の現場で実践する正課外教育プログラム



企画名称：『Gちゃれ』

GちゃれのGは、Golf、Green、Gentleman、Grass、Grace、Good Golferなど、ゴルフに関連する用語をイメージ

Gちゃれ(ゴルフ場体験)



4大学から33名が参加した第66回Gちゃれ
(2018年12月27日、於:八王子カントリークラブ)

Gちゃれの一日 ～八王子CCでの事例～

① チェックイン等、クラブハウスの利用を実践



②③④ 開会式・オリエンテーション、及び座学研修



⑤ 練習 (ショット、アプローチ、パッティング)



Gちゃれの一日 ～八王子CCでの事例～

⑥ 昼食 ラウンドにあたっての注意事項



⑦ コースデビュー(1～4番ホール) ショットガンスタート



⑨ ふりかえり、閉会式



2015年8月、武蔵野美術大学生向けに開始したGちゃれは、

- 全国の大学が導入
- 各地で全80回以上開催
- 参加学生総数1200名以上(2019年8月現在)
- 大学ゴルフ授業研究会は一般社団法人化
- 研究会世話人150名以上

2016年6月27日：授業研究・市場調査がもたらした動きの一例



「大学のゴルフ授業」の充実を目指した 産学連携調印式



ゴルフ市場活性化委員会
委員長 馬場 宏之

公益社団法人 全国大学体育連合
会長 安西 祐一郎

スポーツ庁長官
鈴木 大地

公益社団法人 日本ゴルフ協会
会長 倉本 昌弘

「大学のゴルフ授業」の充実を目指した
産学連携調印式



公益団法人 全国大学体育連合
会長 安西 祐一郎

スポーツ庁長官
鈴木 大地

公益団法人 日本プロゴルフ協会
会長 倉本 昌弘

安西祐一郎氏(当時、日本学術振興会理事長)の主張

2045年の学力(18) いまこそ、体育を必修に

安西祐一郎の
2045年の学力
「高大接続」に込めた思い



「高大接続」という言葉が独り歩きしている。目まぐるしく変わる世界で、私たちの子どもはどんな力を求められるのか、それにふさわしい教育を創っていこう。そんな思いで始めた改革だったが、その方向に進んでいるのだろうか。議論を進めてきた責任者の一人として、改革に込めた思いを語りたい

- 1、体力向上
- 2、コミュニケーション能力養成
- 3、地方創生に貢献可能

1991年、大学設置基準の大綱化によって、体育を専門とする大学・学部以外の多くの大学が、体育を必修科目から選択に切り替えた。大綱化に先立つ大学審議会答申では、開設授業科目と卒業要件について、次のように記している。その記述から、大学審議会が体育を目的にしていたわけではないことを読み取れる。

- 開設授業科目については、大学設置基準上、一般教育科目、専門教育科目等の科目区分は設けないこととし、大学は、当該大学、学部および学科の教育課程を編成すること、教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養、総合的な判断力を身に付けさせ、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮することという趣旨を規定することとする。
- 学生の卒業要件については、学生が修得すべき最低の総単位数を規定することとする。
- この場合、大学の学則では、教育上の必要に応じた適宜の名称で授業科目を区分し、これに応じた最低修得単位数を定めることができるようになるが、従来のように大学で開設する授業科目を専門教育科目、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目等に区分し、従来と同様の最低修得単位数を規定することも可能である。

となると、大学生が体育を履修することは「意味がない」と考えたのは、大学教員たちなのだろう。私自身も、会議の席で「体育を選択にする」と聞いたときには、「もったいないな」と思った程度だった。大学での体育の授業は面白かった。剣道の授業があって、中学で剣道部だったから、まったくやったことのない

2017年6月19日付 読売教育ネットワーク 「いまこそ体育を必修に」

※以下、60～71行目の記述

たとえば今、東京の八王子周辺で、大学とゴルフ場が一緒になって大学の体育の授業にゴルフ場を開放するとともに、地域コミュニティの活性化に役立てる動きが出ている。

(中略)

地方創生の新しい方向をうみ出していくことが期待できる。

発表のまとめ：ポスト2020に向けて

- ◆2016年、リオ五輪から正式種目に112年ぶりにゴルフが復活
- ◆同年、「大学体育へのゴルフ場開放元年」(Gちゃれ)となった
- ◆高齢者向け環境整備は初心者向け環境にも適合する可能性
- ◆高齢者向け環境整備は離反者の再接近環境にも適合可能性
- ◆ゴルフ業界×大学×地域の協同実践の可能性など



【手段としてのゴルフ論】や**【何かの目的の下請け的な発想】**でのゴルフ活性化施策は有効性が低い

過去20年間繰り返され
今だに有用性が高いとされることの多い、
ゴルフ人口増加に向けた提言や発想の一例

- スター選手(強い選手)育成が人口増加に繋がる
 - ゴルフをやるとマナーが身につく
 - ゴルフをやると礼儀作法も身につく
 - そのようなゴルフを社会人はやることが望ましい
 - ゴルフをやると健康になる、認知症にならない
- ……………等々

【手段としてのゴルフ論】や【何かの目的の下請け的な発想】ではなく、**ゴルフそのものが「楽しい」「またやりたい」と**思えるような環境整備を考えるべき